

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率 月次指標の早期推計：7月レポート

野村亮輔（副主任研究員）
稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 上席研究員）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail: nomura-r@apir.or.jp

ポイント

●8月発表データのレビュー：JNTO 訪日外客数

▶JNTO 訪日外客統計によれば(図1及び表4)、7月の訪日外客総数(推計値)は343万7,000人であった。前年同月比+4.4%と前月(同+7.6%)から縮小し、伸びは2カ月連続で1桁にとどまった。

SNSによる誤情報の影響が続き、香港や韓国からの訪日外客数が減少した影響が表れた。また、同月の出国日本人数は120万5,500人であった(同+14.9%)。なお、2019年同月比では-27.3%と、減少幅は前月(同-30.7%)から小幅縮小した。

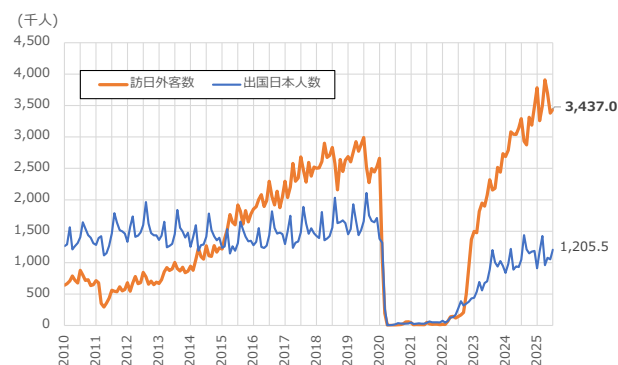
▶訪日外客数のトップ5を国・地域別にみると(図2及び表4)、7月は中国が97万4,500人(前年同月比+25.5%)と最多であった。次いで韓国が67万8,600人(同-10.4%)、台湾が60万4,200人(同+5.7%)、米国が27万7,100人(同+10.3%)、香港が17万6,000人(同-36.9%)と続く。前述した誤情報の影響もあり、香港は3カ月連続で、韓国は2022年1月(同-50.1%)以来の減少となった。

▶目的別訪日外客総数(暫定値)をみれば(図3及び表5)、5月は369万3,587人(前年同月比+21.5%)。うち、観光客は336万8,573人(同+22.1%)となり、5月として過去最高値を更新した。その他客は21万2,049人(同+20.8%)、商用客は11万2,965人(同+6.1%)であった。

▶大阪・関西万博の累計一般来場者数(9月15日時点)は1,942万7,523人となり、2,000万人に迫る水準となった。万博閉幕(10月13日)まで1カ月を切り、関西自治体は、来場者を自府県へ誘客するために積極的な施策を実施している。今回は、奈良県、和歌山県、徳島県、鳥取県、三重県、滋賀県、福井県に続き、大阪府の事例を取り上げてみよう。

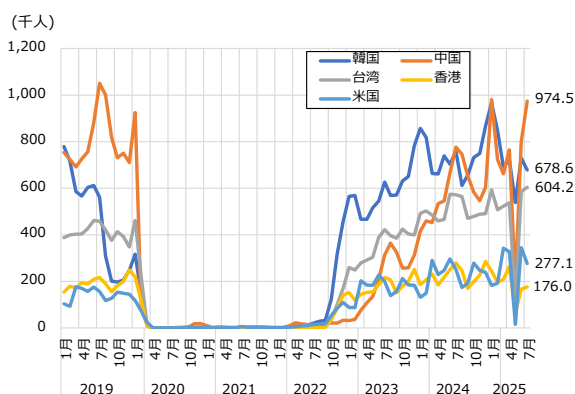
▶大阪府では、国内外の観光客を府内へ誘客するため、1)「大阪 DESTINATION キャンペーン(4月1日～6月30日)」、2)「大阪ウィーク(5月9～11日、7月28～30日、9月13～15日)」や3)「大阪来てな！キャンペーン」を展開している。1)については、府内の観光資源をめぐるモデルコース(例えば堺市の百舌鳥・古市古墳群の特別ガイドツアーなど)やイベントの紹介、2)については、万博会場内にて大阪府の各市町村の歴史・伝統文化、産業・技術等を体験できる参加型イベントの開催である。また3)については、大阪府内で行われるイベントと連携することで大阪への集客や府内周遊の促進を目指している。いずれの施策も国内外の旅行者を府内へ誘客するのみならず、府内での周遊を促進するものとなっているのが特徴的である。このような取り組みによって府内の周遊が促進されれば、万博開幕の効果がより一層均霑されよう。

図1 訪日外客数及び出国日本人数の推移



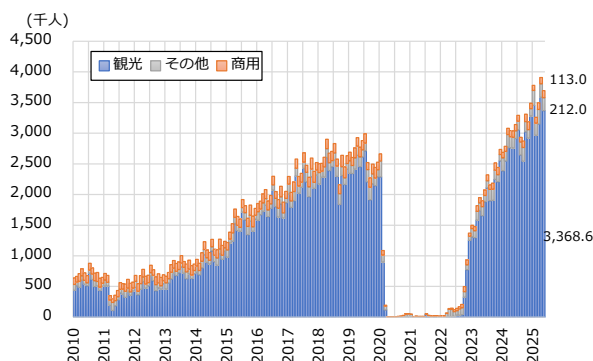
注：2023年まで確定値、24年、25年4月は暫定値、25年5-6月は推計値
出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

図2 上位5カ国・地域別訪日外客数の推移



注：なお、TOP5の国・地域は値を表示している。
出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成。

図3 目的別訪日外客数推移



注：目的別訪日外客数については訪日外客数(推計値)から2カ月遅れて発表される。「観光客」とは、短期滞在の入国者から「商用客」を引いた入国外国人で、親族友人訪問を含んでいる。「その他客」とは、観光、商用目的を除く入国外国人で、留学、研修、外交・公用などが含まれる。
出所：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」より筆者作成

*なお、観光庁「訪日外国人消費動向調査」の訪問率のデータが2023年9月から公表が再開された。このため、中断していた訪問率の月次推計についてはデータの蓄積を待つ今後再開する予定である。

トピックス 1

● 7月関西の財貨・サービス貿易及びサービス産業動向

▶ 関西 7月の輸出額は前年同月比+1.3%と10カ月連続で増加した(前月: 同+1.4%)。一方、輸入額は同-6.4%と2カ月ぶりの減少となった(前月: 同+1.1%)。このため、**関西の貿易収支は+2,502億円と6カ月連続の黒字となり、黒字幅は同+128.2%と3カ月連続で拡大した**(前月: 同+2.9%)(図4)。

▶ 対中貿易動向をみると(図5)、**関西7月の対中輸出は前年同月比+0.1%と小幅ながら3カ月ぶりに増加した**(前月: 同-2.9%)。輸出増に寄与したのは半導体等電子部品、繊維機械等であった。一方、**対中輸入は同-2.7%と2カ月連続の減少**(前月: 同-0.6%)。輸入減に寄与したのは通信機、衣類及び同附属品等であった。

▶ **7月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は89万4,516人であった**(図6)。前年同月比+7.6%と増加幅は前月(同+9.9%)から縮小し、**2カ月連続で1桁の伸びにとどまった**。前述したように、SNS等を通じた誤情報が広まったこともあり、香港や韓国からの入国者が減少した影響が表れたようである。同月の日本人出国者数は22万6,966人であった。前年同月比+17.5%と増加幅は前月(同+13.3%)から拡大。なお、2019年同月比では-28.7%となり、**アウトバウンド需要は依然低迷している**。

▶ サービス業の生産活動を示す**第3次産業活動指数**(季節調整済み: 2019-20年平均=100)をみれば(図7)、7月は105.0で前月比+0.5%と2カ月ぶりのプラスとなった(前月: 同-0.2%)。経産省は基調判断を「一部に足踏みがみられるものの、持ち直しの動き」と前月から据え置いた。また、同月の**対面型サービス業指数***は106.2で同+0.5%と、2カ月ぶりのプラス(前月: 同-0.7%)。うち、運輸業、郵便業(同+3.4%、2カ月ぶり)が上昇に寄与した。**7月を4-6月平均と比較すると、第3次産業活動指数は+0.5%(4-6月期: 前期比+0.4%)、対面型サービス業指数は+0.6%(4-6月期: 前期比-0.5%)、それぞれ上昇した**。

▶ **7月の観光関連指数****(季節調整済み: 2019-20年平均=100)は(図7)、110.6と前月比-2.5%低下し、2カ月連続のマイナス(前月: 同-0.9%)。うち、宿泊業、飲食サービス業(同-2.0%、2カ月連続)や劇場・興行団(同-6.6%、2カ月連続)等が低下に寄与した。7月の観光関連指数は4-6月平均比-1.9%低下した(4-6月期: 前期比-1.2%)。

*対面型サービス業は、「運輸業、郵便業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「学習支援業」及び「医療、福祉」を指す。

**観光関連指数は第3次産業活動指数のうち、「旅客運送業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「旅行業」、「映画館」、「劇場・興行団」及び「公園、遊園地・テーマパーク」の各指数の加重平均。

図4 関西 対世界貿易の推移

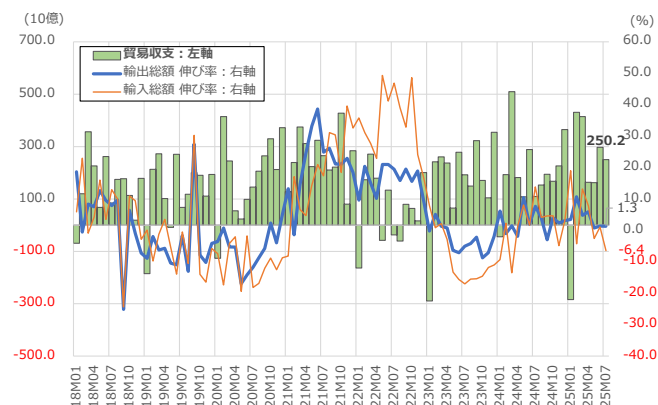
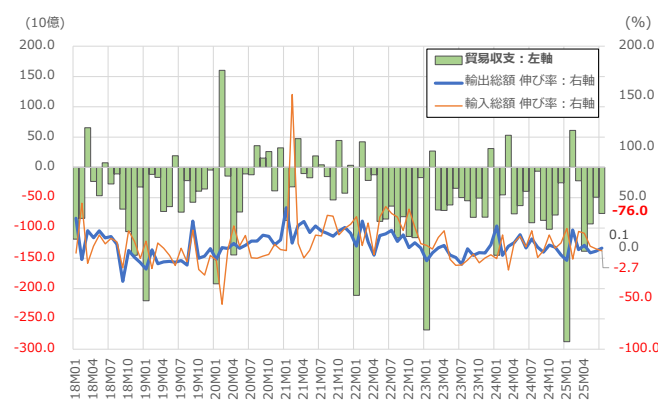
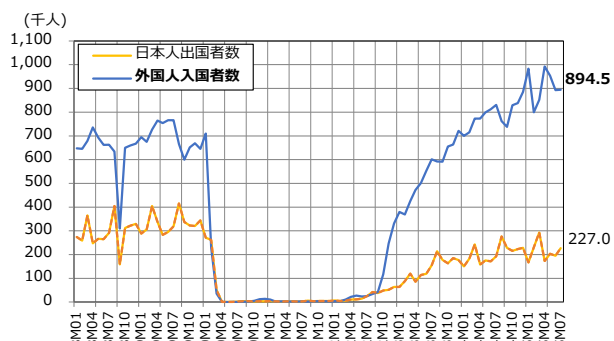


図5 関西 対中貿易の推移



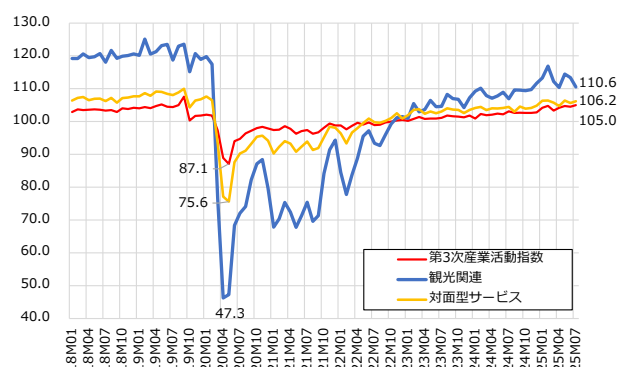
出所:「大阪税関貿易速報資料: 近畿圏」より筆者作成

図6 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所: 出入国管理統計より筆者作成。2025年7月値は速報値

図7 観光関連 対面型サービス 第3次産業: 2019-20年平均=100



出所: 経済産業省「第3次産業活動指数」より筆者作成

トピックス 2

● 5月延べ宿泊者数の動向：関西2府8県

▶観光庁によれば、5月の関西2府8県の延べ宿泊者数(全体)は**12,664.1千人泊**であった(表1)。前年同月比+5.0%と2021年11月以降プラスを記録し、増加幅は前月(同+4.3%)から小幅拡大。

▶日本人延べ宿泊者数は**8,063.8千人泊**となった。前年同月比+1.1%と4カ月ぶりに増加した(前月：同-5.6%)(表1及び図8)。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 2,890.4千人泊、京都府 1,384.2千人泊、兵庫県 1,192.7千人泊、三重県 806.0千人泊、滋賀県 414.1千人泊、和歌山県 372.6千人泊、福井県 317.1千人泊、奈良県 273.8千人泊、徳島県 222.9千人泊、鳥取県 190.0千人泊であった。関西5月の前年同月比(+1.1%)に対する寄与度をみれば、**大阪府**(同+2.1%ポイント)、**三重県**(同+1.7%ポイント)や**奈良県**(同+0.4%ポイント)等、6府県が増加に寄与した。一方、減少に寄与したのは、**京都府**(同-2.9%ポイント)、**鳥取県**(同-0.4%ポイント)、**滋賀県**(同-0.2%ポイント)等、4府県であった。なお、京都府は2023年6月以降、前年割れが続いている。

▶外国人延べ宿泊者数は**4,600.3千人泊**であった(表1及び図9)。前年同月比+12.6%と38カ月連続のプラスだが、増加幅は前月(同+21.4%)から縮小した。府県別に延べ宿泊者数を降順にみれば、大阪府 2,277.0千人泊、京都府 1,869.8千人泊、兵庫県 196.5千人泊、和歌山県 89.8千人泊、奈良県 51.8千人泊、三重県 34.2千人泊、滋賀県 28.4千人泊、鳥取県 22.0千人泊、徳島県 20.3千人泊、福井県 10.6千人泊であった。なお、大阪府と京都府に比して、水準は低い**兵庫県の延べ宿泊者数が単月過去最高値を更新した**。前年同月比(+12.6%)への寄与度をみれば、**京都府**(同+5.9%ポイント)、**大阪府**(同+3.9%ポイント)、**兵庫県**(同+1.2%ポイント)等、9府県が外国人延べ宿泊者の増加に寄与した。

▶なお、宿泊料金と賃金との交易条件(現金給与総額/宿泊料金：2019年=100)をみれば、2025年7月は66.2となった。前年同月比-1.7%と28カ月連続の悪化だが、前月(同-3.4%)から悪化幅は縮小した。依然として宿泊料の高止まりが続き、所得環境の改善ペースが緩慢であるため、日本人宿泊者にとっては厳しい状況が続いている(図10)。

図8 府県別日本人延べ宿泊者数 推移

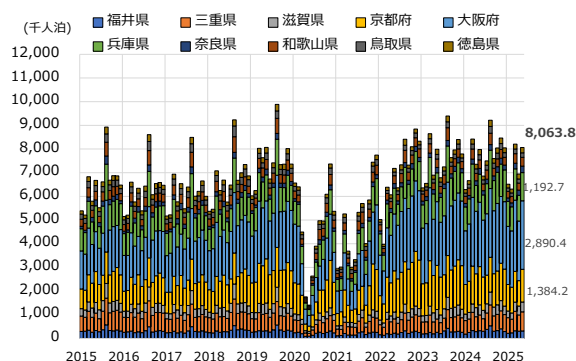


図9 府県別外国人延べ宿泊者数の推移

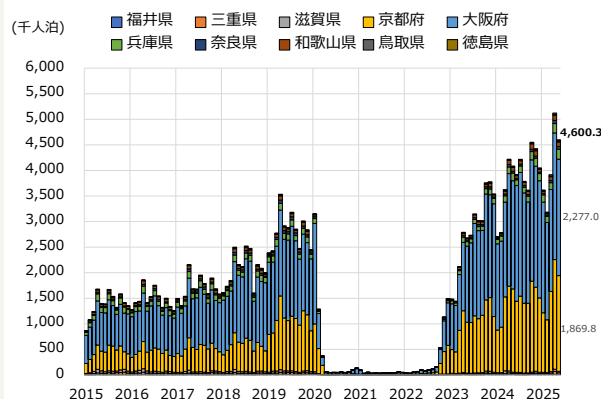
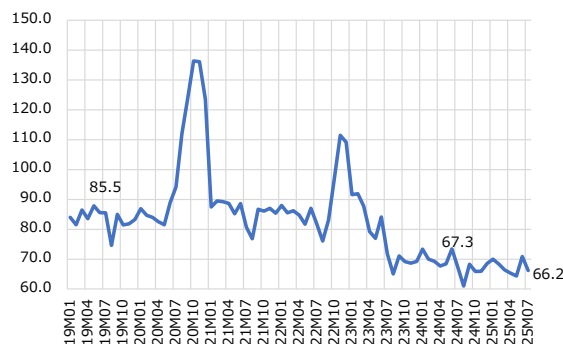


図10 宿泊料金と賃金の交易条件
(現金給与総額/宿泊料金)



注：宿泊料金(消費者物価)と賃金(現金給与総額)の相対的関係をみている。
2019年平均を100。

出所：総務省統計局『消費者物価指数』及び厚生労働省『毎月勤労統計調査』

表1 関西 延べ宿泊者数伸び率：5月

2025年5月	総数			日本人			外国人		
	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	前年比伸び率： 前月(%)	延べ宿泊者数： (千人泊)	前年比伸び率： 当月(%)	前年比伸び率： 前月(%)
福井県	327.7	11.4	10.2	317.1	-2.9	7.4	10.6	-17.0	35.6
三重県	840.3	13.2	3.7	806.0	20.9	8.8	34.2	61.8	75.3
滋賀県	442.5	3.7	1.6	414.1	-3.3	-2.7	28.4	30.8	15.0
京都府	3,254.0	4.7	3.7	1,384.2	-14.1	-24.8	1,869.8	14.9	29.3
大阪府	5,167.4	8.4	6.4	2,890.4	6.2	-4.7	2,277.0	7.6	12.5
兵庫県	1,389.3	6.7	-0.8	1,192.7	0.8	-0.2	196.5	31.5	40.6
奈良県	325.6	12.7	16.8	273.8	11.4	10.8	51.8	45.1	32.9
和歌山県	462.4	8.6	4.1	372.6	4.3	-5.9	89.8	14.0	22.1
鳥取県	212.0	-19.5	-16.5	190.0	-13.1	-8.2	22.0	160.7	151.5
徳島県	243.2	0.2	10.1	222.9	1.2	8.8	20.3	28.4	68.5
関西2府4県	11,041.0	7.0	4.6	6,527.8	-0.3	-8.0	4,513.2	12.0	20.6
関西2府8県	12,664.1	6.8	4.4	8,063.8	1.1	-5.6	4,600.3	12.6	21.4
全国	55,635.4	3.2	2.2	39,775.8	-2.4	-5.2	15,859.5	16.7	20.4

注：表中の赤枠は寄与度が高いTOP3を示している。

出所：観光庁「宿泊旅行統計調査」(図8～9及び表1)より筆者作成

トピックス 3

● 2025 年 4-6 月期国内旅行消費の動向：関西 2 府 8 県*

▶観光庁によれば、**2025 年 4-6 月期関西(2 府 8 県ベース)の国内旅行消費額(速報)**は 1 兆 4,078 億円となった(表 2)。前年同期比 +8.9%と **6 四半期連続のプラス**だが、伸びは 3 四半期連続で 1 桁台にとどまっている(2024 年 10-12 月期：同+6.5%、25 年 1-3 月期：同 8.5%)。

▶国内旅行消費額のうち、**4-6 月期の宿泊旅行消費額は 1 兆 981 億円**であった。前年同期比+9.9%と **6 四半期連続のプラス**だが、**1-3 月期(同+15.5%)から増加幅は縮小した**(図 11 及び表 2)。府県別に消費額を降順にみれば、大阪府 4,220 億円(同+40.0%)、京都府 1,865 億円(同+5.1%)、三重県 1,498 億円(同+20.8%)、兵庫県 1,477 億円(同-13.0%)、和歌山県 815 億円(同+62.3%)、奈良県 576 億円(同+19.1%)、鳥取県 211 億円(同+39.8%)、滋賀県 132 億円(同-54.8%)、福井県 111 億円(同-83.8%)、徳島県 76 億円(同-48.9%)であった。

▶国内旅行消費額のうち、**4-6 月期の日帰り旅行消費額は 3,097 億円**であった。**前年同期比+5.6%と 2 四半期ぶりのプラス**となった(1-3 月期：同-16.7%)(図 12 及び表 2)。府県別に消費額を降順にみれば、**大阪府 1,525 億円(同+86.5%)**、兵庫県 417 億円(同-12.6%)、京都府 386 億円(同-16.1%)、和歌山県 252 億円(同+2.3%)、三重県 215 億円(同-34.0%)、奈良県 107 億円(同-9.5%)、滋賀県 106 億円(同-55.6%)、福井県 55 億円(同-61.0%)、徳島県 17 億円(同-60.1%)、鳥取県 17 億円(同-74.6%)であった。大阪府と和歌山県を除き、すべての府県で減少した。中でも、**大阪府は 4 月 13 日に開幕した大阪・関西万博の影響もあり、過去最高値を更新した**。**

図 11 関西 2 府 8 県 宿泊旅行消費額の推移

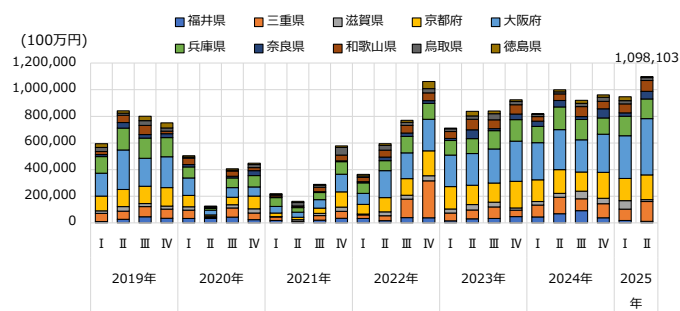
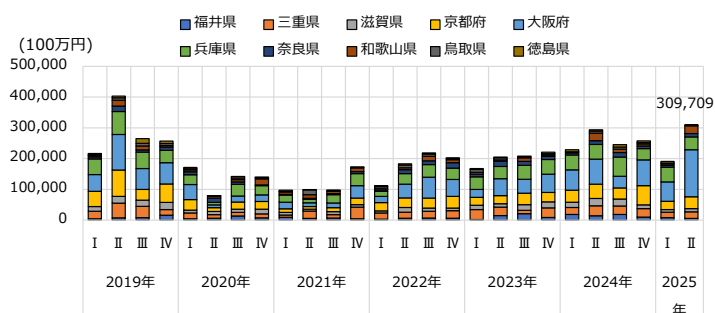


図 12 関西 2 府 8 県 日帰り旅行消費額の推移



(注) 宿泊旅行、日帰り旅行ともに、観光・レクリエーション目的以外に帰省・知人訪問等、出張・業務目的を含む。

2024 年までは確報。25 年 4-6 月期は速報

(上図も同様)。

出所:観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成。

*トピックス 3 は四半期ごとの掲載である。

**なお、万博前半の経済効果については Trend Watch No.102 を参照のこと。

表 2 関西 国内旅行消費額：2025 年 4-6 月期

	国内旅行消費額			宿泊旅行消費額			日帰り旅行消費額		
	金額： 100万円	前年比伸び率： 4-6月期(%)	前年比伸び率： 1-3月期(%)	金額： 100万円	前年比伸び率： 4-6月期(%)	前年比伸び率： 1-3月期(%)	金額： 100万円	前年比伸び率： 4-6月期(%)	前年比伸び率： 1-3月期(%)
福井県	16,668	-79.9	-59.0	11,118	-83.8	-60.0	5,550	-61.0	-56.6
三重県	171,315	9.4	-8.2	149,805	20.8	-4.4	21,510	-34.0	-23.0
滋賀県	23,807	-55.2	67.1	13,179	-54.8	140.2	10,629	-55.6	-46.9
京都府	225,064	0.8	-4.0	186,493	5.1	2.6	38,572	-16.1	-31.8
大阪府	574,568	49.9	11.2	422,028	40.0	15.0	152,540	86.5	-4.7
兵庫県	189,367	-12.9	13.9	147,679	-13.0	19.5	41,687	-12.6	-0.5
奈良県	68,282	13.5	-31.7	57,603	19.1	-35.1	10,679	-9.5	-12.5
和歌山県	106,676	42.5	94.6	81,484	62.3	96.4	25,192	2.3	73.0
鳥取県	22,810	5.1	45.7	21,137	39.8	41.3	1,673	-74.6	113.1
徳島県	9,257	-51.4	196.4	7,578	-48.9	494.8	1,678	-60.1	-19.6
関西2府8県	1,407,813	8.9	8.5	1,098,103	9.9	15.5	309,709	5.6	-16.7

出所：観光庁『旅行・観光消費動向調査』より作成。

表 4 2025 年 7 月 訪日外客数 (JNTO 推計値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2024年	2025年	伸率 (%)	2024年	2025年	伸率 (%)
	7月	7月		1月～7月	1月～7月	
総数	3,292,602	3,437,000	4.4	21,075,024	24,955,400	18.4
総数(中国除く)	2,516,082	2,462,500	-2.1	17,225,648	19,262,500	11.8
韓国	757,679	678,600	-10.4	5,199,790	5,462,100	5.0
中国	776,520	974,500	25.5	3,849,376	5,692,900	47.9
台湾	571,698	604,200	5.7	3,550,895	3,888,900	9.5
香港	279,069	176,000	-36.9	1,555,176	1,447,100	-6.9
タイ	53,494	48,600	-9.1	671,804	729,100	8.5
シンガポール	28,115	24,300	-13.6	328,142	369,400	12.6
マレーシア	19,260	18,100	-6.0	261,057	342,100	31.0
インドネシア	29,571	37,600	27.2	293,393	373,600	27.3
フィリピン	55,466	47,400	-14.5	457,233	495,500	8.4
ベトナム	49,733	53,500	7.6	381,631	418,100	9.6
インド	14,941	18,300	22.5	136,834	189,400	38.4
豪州	48,616	50,200	3.3	510,607	617,400	20.9
米国	251,218	277,100	10.3	1,594,153	1,978,500	24.1
カナダ	48,158	52,100	8.2	320,422	387,500	20.9
メキシコ	16,011	19,800	23.7	80,029	104,600	30.7
英国	32,910	37,100	12.7	251,401	308,100	22.6
フランス	37,353	46,200	23.7	221,678	255,900	15.4
ドイツ	22,685	28,100	23.9	180,330	230,900	28.0
イタリア	18,370	21,800	18.7	114,486	157,800	37.8
スペイン	18,687	24,100	29.0	84,622	122,400	44.6
ロシア	5,675	11,300	99.1	46,771	94,900	102.9
北欧地域	15,871	19,100	20.3	89,541	113,500	26.8
中東地域	12,826	20,000	55.9	88,064	135,800	54.2
その他	128,676	149,000	15.8	807,589	1,039,900	28.8

表 5 2025 年 5 月 目的別訪日外客数 (JNTO 暫定値) (前年同月比)

国・地域	総数 Total			観光客 Tourism			商用客 Business			その他客 Others		
	2024年	2025年	伸率(%)	2024年	2025年	伸率(%)	2024年	2025年	伸率(%)	2024年	2025年	伸率(%)
	5月	5月		5月	5月		5月	5月		5月	5月	
総数	3,040,294	3,693,587	21.5	2,758,219	3,368,573	22.1	106,519	112,965	6.1	175,556	212,049	20.8
韓国	738,872	825,883	11.8	706,635	792,153	12.1	16,166	15,256	-5.6	16,071	18,474	15.0
中国	545,552	790,089	44.8	472,394	699,479	48.1	23,419	26,031	11.2	49,739	64,579	29.8
台湾	466,008	538,428	15.5	450,854	522,165	15.8	8,130	7,738	-4.8	7,024	8,525	21.4
香港	217,486	193,044	-11.2	213,788	188,968	-11.6	2,057	2,017	-1.9	1,641	2,059	25.5
タイ	97,408	108,106	11.0	92,203	102,421	11.1	2,354	2,426	3.1	2,851	3,259	14.3
シンガポール	62,676	63,257	0.9	60,183	60,565	0.6	2,131	2,239	5.1	362	453	25.1
マレーシア	39,562	51,725	30.7	37,027	48,926	32.1	1,510	1,634	8.2	1,025	1,165	13.7
インドネシア	41,274	52,280	26.7	30,087	37,525	24.7	1,419	1,330	-6.3	9,768	13,425	37.4
フィリピン	67,443	82,723	22.7	56,561	67,744	19.8	4,766	6,995	46.8	6,116	7,984	30.5
ベトナム	50,575	59,263	17.2	13,267	13,923	4.9	3,230	3,148	-2.5	34,078	42,192	23.8
インド	29,068	43,040	48.1	19,616	32,782	67.1	4,802	5,206	8.4	4,650	5,052	8.6
豪州	66,476	78,874	18.7	63,603	75,670	19.0	2,047	2,228	8.8	826	976	18.2
米国	246,972	311,933	26.3	231,028	296,178	28.2	11,137	10,627	-4.6	4,807	5,128	6.7
カナダ	55,811	66,346	18.9	53,834	64,325	19.5	1,156	1,038	-10.2	821	983	19.7
メキシコ	11,514	15,080	31.0	11,021	14,614	32.6	296	278	-6.1	197	188	-4.6
英国	39,120	52,095	33.2	35,024	47,573	35.8	2,759	3,144	14.0	1,337	1,378	3.1
フランス	38,159	46,049	20.7	34,485	42,184	22.3	2,053	2,153	4.9	1,621	1,712	5.6
ドイツ	32,196	42,268	31.3	28,704	38,403	33.8	2,593	2,822	8.8	899	1,043	16.0
イタリア	17,443	24,956	43.1	15,689	22,872	45.8	1,299	1,541	18.6	455	543	19.3
ロシア	8,004	19,152	139.3	6,833	17,993	163.3	742	684	-7.8	429	475	10.7
スペイン	13,417	20,799	55.0	12,446	19,651	57.9	553	657	18.8	418	491	17.5
中東地域	14,009	23,248	66.0	11,897	21,419	80.0	1,054	1,092	3.6	1,058	737	-30.3
その他	141,249	184,949	30.9	101,040	141,040	39.6	10,846	12,681	16.9	29,363	31,228	6.4

注：目的別訪日外客数の定義については、図 3 注参照。表中の赤枠は過去最高を更新した国及び地域
出所：日本政府観光局(JNTO)、2025 年 8 月 20 日付より筆者加工